

# 「マネタリーベース」統計の公表開始について

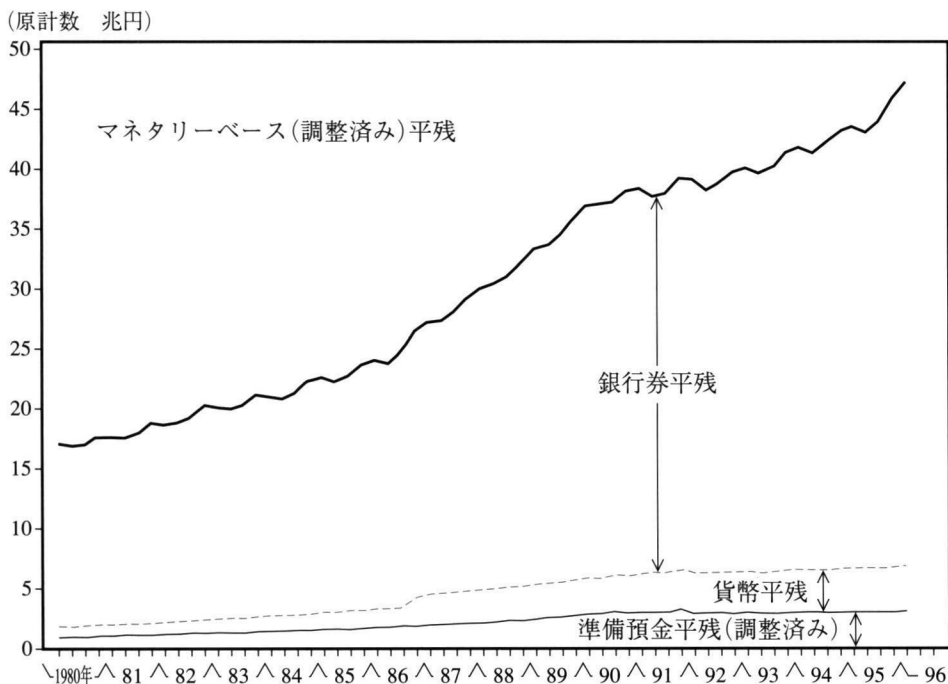
日本銀行は、中央銀行として種々の統計ニーズに応えるよう絶えず統計の見直し・改訂を行なってきているが、今般、その一環として、経済統計月報5月号より「マネタリーベース」の対外公表を開始した。「マネタリーベース」の概要は以下のとおり。

## 1. マネタリーベースの定義

マネタリーベースとは、「流通現金（銀行券+貨幣とともに金融機関保有分を含む）」と「金融

機関の中央銀行預け金」を合計したものであり、「ベースマネー」、「ハイパワードマネー」とも呼ばれている。マネーサプライが金融部門全体から経済に対して供給される通貨を指すのに対し、マネタリーベースは中央銀行の供給する通貨を指す。その内訳をみると（図表1<準備率調整については次項参照>）、96年2月現在では、銀行券のウェイトが約85%と圧倒的に高く、貨幣、準備預金が各々8%、7%である（なおマネタリーベース前年比の推移は後掲図表2参照）。

(図表1) マネタリーベース平残(準備率調整済み)とそのコンポーネントの推移



## 2. 準備率調整後のマネタリーベース平残

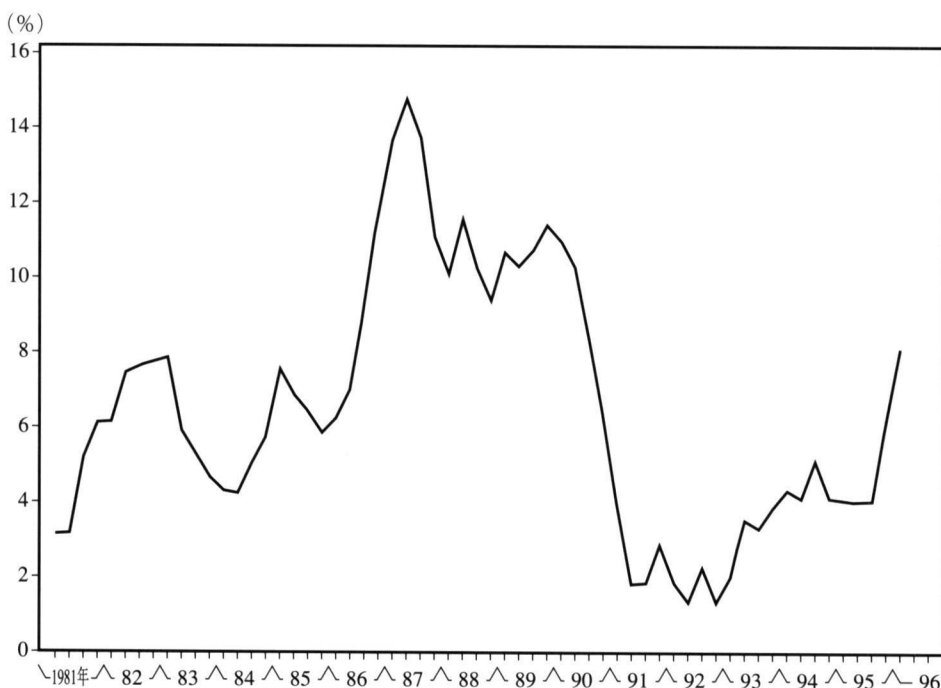
マネタリーベースは、預金準備率の変更に伴い変動する。例えば、準備率が引き下げられた場合、預金総量が変わらなければ、所要準備額の減少からマネタリーベースも減少するため、マネタリーベースと他の経済指標の関係を分析するユーザーの利便性を配慮して、日本銀行では、こうした準備率変更による変動要因を調整した指標を準備した。具体的には、預金準備率

が、業態、勘定、預金量、預金種類等、各条件ごとに細かく規定されているため、各期の平均実効準備率（法定準備預金総額／準備預金対象債務）を用いてこうした変化の調整を以下のとおり行うこととした。

$$\begin{aligned} \text{準備率調整済準備預金総額<平残>} &= \text{当期の準備預金総額<平残>} \times \\ &\quad \text{基準時点の平均実効準備率} / \\ &\quad \text{当期の平均実効準備率} \end{aligned}$$

基準時点は95年12月。

(図表2) マネタリーベース平残(準備率調整済み)前年比の推移



(調査統計局)